大田区のものづくりとIT（後編）
――世界の大田区への支援活動――

奥山　睦（おくやま　むつみ）氏
株式会社ウイル代表取締役
（聞き手：八巻直一・横田絵理・大串葉子）

前号に引き続き，株式会社ウイル代表取締役の奥山氏へのインタビューをお届けします．今回は，新しいプロジェクトや，今後の大田区のものづくりを担う中小企業について伺っています．

聞き手　それでは，次に，今手がけていらっしゃる新しいプロジェクトについてお聞かせください．

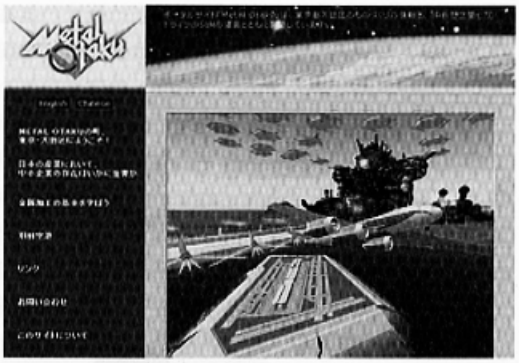
奥山氏　昨年（2008年）の7月1日に経済産業省の「地域資源活用新事業展開支援事業」に採択され，経済産業省が地域資源を使ったプロジェクトに半分お金を出しますよ，というものでした．提案はセカンドライフによるバーチャル工場と多言語のポータルサイトで，2つのメディアを使って，海外に大田区の産業集積を知らしめていこうというものでした．とにかく昨年（2008年）の7月から2009年3月25日までで終わってしまったので，いくらも時間がなく，作っただけで精一杯でした．本格的に稼動させていくのは2009年4月以降です．経済産業省のプロジェクトは「地域産業イノベーション・グループ」という任意団体で，11社に参加してもらって作りました．ほとんどが製造業で，IT系企業の当社が事務局として，プロジェクトを取りまとめ，外部ブレーンとしては，翻訳会社や教育サービス会社，日本のセカンドライフ普及の第一人者といわれるデジタルハリウッド大学大学院の三淵啓自教授などにもかかわっていただきました．補助金事業終了に伴い，「地域高度化研究協会有限責任事業組合」というLLP（有限責任事業組合）を作り，そこへ運営主管を移管させました．プロジェクトは3月で終わってしまったので，これを運用してさらに発展させていこうという趣旨で，この組合を作り，プロジェクトに参加した企業プラスアルファくらいで，システムを運用していこうということになりました．海外からどう関心を持っていただくかというための仕掛けを作って，それを実質的に動かしていこうということです．

奥山　睦氏

セカンドライフのSIM（島）の中には巨大な工場を作りました．空中に浮かんでいる巨大展示場に色々な企業や工場の会社概要を作り，そこをクリックすると各社のサイトに飛んでいくという仕組みをつくったのです．おかげさまで新聞，映像などの媒体で紹介されました．今後はさらにそれを運用し，どうやって大田区の強みをみせて実際の受注に結び付けようかということが課題です．

聞き手　大田区の中小企業を海外にも知らしめるということがメインの目的なのでしょうか？

奥山氏　そうです．最初は知らしめるだけで精一杯だろうと考えていました．大田区なんて世界中で誰も知らないんです．世界規模でいったら大田区の産業集積などまったく知らない．その話を聞いていました．たとえばアメリカの商工会議所にいっても「大田区なんて知らないよ」という世界なのです．騒いでいるのは日本だけ．そこでまず，大田区ってどんなところかということを知ってもらうことから



Metal Otaku
http:www.metal-otaku.net/

始めました．羽田空港がある，機械金属加工業の集積場があるらしいよ，といううわさの種を蒔いていって，「こんな本格的なことをやっているんだよ」ということをウェブサイトで見せていこうと思いました．ウェブでは日本語と英語と中国語とを作って，第1期稼動までのコンテンツは作り上げました．次は第2期の稼動のコンテンツを作ることになります．

聞き手　これはウェブ上で見るものなのですか？

奥山氏　そうです．まずセカンドライフ上にバーチャル工場ができていて，そこから「Metal Otaku（メタル大田区）」というポータルサイトに飛ぶこともできますし，普通に「Metal Otaku」というサイトで見ることもできます．

聞き手　セカンドライフの更新料はかからないのですか？　土地を買わないといけないのですね？

奥山氏　一回買ったら終わりですが，維持費はかかります．土地はメインランドで，リンデンラボ社というところがもっているので，アメリカ人がよく行くメインランドに土地を買うと，いい土地で30万円くらい．安い土地では5万円くらいであります．安いということはつまり「アクセスしにくい」ということです．土地にもランクがあるんです．土地ころがしもあるんですよ．土地がオークションの対象にもなっている．この辺はみんながチェックしやすいから高いということもあります．メインランドに土地を買ったのはなぜかというと，海外に知って欲しかったので，海外の人がアクセスしやすい土地を買いました．

聞き手　PRですからソフトウエア的な側面ですね．そういうところにお金が出たのは経済産業省としては頑張ったプロジェクトだという感じがしますね．

奥山氏　そうなんです．経済産業省もセカンドライフのSIM構築にお金を出したのは初めてだということです．われわれも通るとはまったく思わなかったのです．展示会やホームページを作るようなことに今まではお金が出ていました．

今回のプロジェクトには二つ仕掛けをつくっています．3次元と2次元です．両方の仕掛けを作ってどちらからも入れてどちらにも行けるような形にし，どれくらいの効果があるのか見てみたいということもありました．自分にとっても3次元仮想空間は未知の世界なので．ただ，総務省も，たとえば携帯サイトに3次元のアクセスマップを載せるというようなことは相当予算をかけてやっているので，3次元空間に慣れていくということもこれからの課題だと思います．

聞き手　この間ちょっとのぞいてみたら，大田区のこれまでのイメージではないですね．とてもぴかぴかなんですね．

奥山氏　そうなのです．裏には油まみれのところもあるのですが，表はあえてすごいんです．表はぴかぴかで，まるでガンダムなんです．というのは実はメインロボットのキャラクターをデザインしてくれたのはガンダムのデザイナーなんですよ．ガンダムをデザインしてくれた有名なデザイナーなので，そういうことも話題性として重要なのです．つまり「おたく」なんです．「メタル大田区」，「メタルおおたく」，「メタル『おたく』」なんです．

聞き手　「Always三丁目の夕日」の中に出てくるスズキオートの世界が大田区の世界のように思えますが，そうだとすればすごく信頼感がある世界ですね．何とかしてくれそうな．今でもそういうところがありますね．ぴかぴかなところだとちょっと違うでしょうか．いままでは自転車の距離で義理人情でやってきたと

思いますが，海外に出て行くとなるとそれは難しくなりますね．海外との受発注には対応可能になっているのですか？

奥山氏　LLPには翻訳会社も入っているのです．日中韓英仏語の専門家が入っているので，問い合わせがあった場合には絶対に対応できるようになっているんです．そうでないと怖くてできないです．

聞き手　ご著書（注）の中の「ダイヤ精機」さんに大変興味がわきました．工程管理をある程度，数社でシェアできていれば，注文が大きくなっても頼みやすいでしょうし．

奥山氏　ダイヤ精機さんは大田区としては珍しいくらい経営手法が新しいです．考え方も合理的です．女性も結構働いていて，女性のマイスター技能士も働いています．

聞き手　同じような集積ですが，たとえば，燕市のケースでは，大量の注文になると海外に行ってしまう．あるロット以上になると人を束ねられないと．集積はあるがまだまだまとめきってないので，初期ロットは頼んでもらえるが，本格的には頼んでもらえないと聞いています．大田区の場合には試作品作りが売りだということではありますが，専門性が電子化すると，小さくてもやっていける集積が必要ですし，そのためにはどこがどういう技術を持っているかをITでまとめていけるかが課題ではと思いますが．

奥山氏　ITは両刃の剣というところがあります．大田区の中小企業は試作品作りの会社がほとんどなので，情報公開が深くはできないのです．どんなに優れた技術でも公開をしてしまうと逆にメーカーからストップがかかることもあるのです．ホームページを閉鎖してしまったという会社もあるそうです．その辺の兼ね合いが難しく，非常に技術力があっても一般公開をしてない，むしろその方が安全という会社もあります．

もう一つは生産財にずっと特化してきたのですが，これから販路を開拓するに当たっては，羽田空港も国際化するので，金属加工品のみやげ物など，消費財の開発も必要ではないかと思っています．

いまでもやはり中国・韓国は，日帰りで検品が可能です．羽田はわれわれにとっては「足」なんですね．でもまだ海外対応になっていないんですよ．リタイアした人をボランティアとして観光ツアーの案内人にしたり，地域観光の活用，消費財をつくって羽田空港で売ろうとか，面白いこともできそうです．リタイアメントの人材活用も考えられそうですね．

聞き手　燕は大変そうです．

奥山氏　燕は企業規模が小さくて，まさに「三ちゃん経営」です．大田区のほうはもう少し規模が大きいので，かえって本当に今回の危機は深刻で，売上9割減，8割減という世界です．厳しいというものではないくらいです．去年大田区には4770社あったのですが，今は4000社くらいになっているはずなんです．昨年10月以降で．その中にはひっそりやめたところもありますが，倒産したところももちろんあります．まだ資産を持っているところは工場を売ったり，海外拠点を閉めたりして，なんとか自分の足を切って内部留保の部分で生き残っていますが，それすらないところは本当に厳しいです．

一番厳しいのは20人相当の規模だと思います．従業員はいるし，工場もある程度の広さがないといけないし，中途半端なところが一番大変です．

聞き手　中小企業の産業集積というと東大阪が有名ですが，大田区との違いは何があるのでしょ

大田工業フェアにて

うか？　集積の度合いは東大阪のほうが強いのですね？

奥山氏　そうですね．大田区は違うものが入り込んでいると思います．東大阪とネットワークを組むというよりも，どちらかというとライバル視していると思います．大田区が絶対と思っている人もいますから．

聞き手　海外展開に関連して，日本の工場と海外の工場でやり取りをされていく中で，連携受注というようなことはこれからですか？

奥山氏　これからですね．タイの財閥系の会社でアマタコーポレーションという企業が所有する工業団地は，タイのGDPの4%を生み出しています．その会社がもっている工業団地の一角に「オオタテクノパーク」というところができました．この工業団地に大田区の中小企業が進出しているのです．これに対して大田区は一銭もお金を出してないんですよ，実は．工業団地はアマタコーポレーションが出資し，入居の斡旋を大田区の外郭団体である財団法人大田区産業振興協会というところがその橋渡しをし，タイの工場に大田区の中小企業を入れるということをやっています．タイ政府としても大田区の企業の進出はウェルカムなのです．私もそこの開所式に区長や外郭団体の職員，数名の製造業の経営者と一緒に行ったのですが，そこにはタイの副首相や工業省の人や，マスコミもきていました．大田区は裾野産業としてはとても有名で，日系企業も工業団地に進出しているので，優秀な裾野産業の機械金属加工系を中心とした企業に来て欲しい，という熱烈歓迎の希望がもともとタイのほうから大田区にあったらしいです．それがきっかけとなってタイに「オオタテクノパーク」ができたんです．

聞き手　タイの技術レベルはどの程度ですか？

奥山氏　タイはもともと農業国なので，アジア通貨危機のときに農業国から工業へと転換せざるを得なくて，そのお手本となる国として日本，中でも大田区があり，裾野産業としてのレベルの高さをみて，タイに進出して欲しいという要請があったようです．タイ政府からの直々のオファーがあったということらしいですよ．そういう意味では大変いいチャンスをいただいていることをみると，大田区のブランドイメージが非常に良いということだと思います．アジア圏に関しては大田区ブランドが浸透しているということです．

聞き手　小企業のビジネスモデルとしては新興国にとってはありがたいのでしょうね．

奥山氏　そうでしょうね．ただし中小企業が海外進出するのに，一社だけで行くのも怖いので，大田区が翻訳サービスや総務のサービスなどのサポートはしてくれます．その辺に関して，これから進出を考えている企業にはいいと．加えてこの世界不況で入居者数も伸び悩んでしまっているというのも実態のようです．タイの政情も不安定だということもあります．

聞き手　これ以外にITを活用した新しい方向性はありますか？

奥山氏　その他の点としては雇用問題が重要だと思っています．今，後継者問題は本当に深刻です．一方，元気のいい中小企業にとっては，今は100年に一度のチャンス，いい人を採るチャンスかもしれないとも言われています．いい人材が中小企業に入ってくれるかもしれないというチャンスです．ジョブマッチングの場が増えていけば，また違う展開が出てくるのかという気がしています．

もうひとつは大田区にものづくりのベンチャーをもう少し作っていくことでしょうか．いままでの伝統型のベンチャーではなく，もう少し違うやり方を考えてみたい．ひとつの案として，大学連携をもう少しやっていけばと考えています．たとえば，山形大学の有機EL（Organic Electro-Luminescence有機電界発光）のような先端技術に特化していくとか．大学との連携をチェーンにしていくとか．せっかく東京工業大学の一部が大田区にあるのにあまり効果がないというのが残念です．連携はしているのだけれども，東工大の先生に言わせると，中小企業にとって東工大は敷居が高いようで，絶対自分たち（中小企業側）から寄っていかない．大学から近づかない限りは中小企業からは寄りつかないこ

とはもったいないという気がしています．

聞き手　有機ELは山形大学に個性的な教授がいて，企業が出資し，大学院をあげて応援し，しかも装置産業でもあったのでうまくいったということだと思いますが，大田区の場合はどうでしょうか？「なんだろう大田区の産業って？」という疑問をもっていました．「試作の大田区」とはなってはいるものの，たとえば，ロボットの大田区とか目玉的な色が着いたほうがわかりやすいのかもしれませんね．

奥山氏　そうなんですね．何とくっついて大田区は伸びていくのか．技術かもしれないしキーワードかもしれません．今はそういう目玉になる，引き寄せる言葉もなければ技術もないのです．ある程度なんでもあるのですが，じゃあ一口で大田区ってなにといわれたら誰も答えられないんですね．

聞き手　燕でしたら金属加工，磨きというもののようにですね．

歴史的に何かがあったところが，その後別のものに使われるようになったということでは，燕地域は最初は刀鍛冶から金属加工になっていったというのがありますが，大田区の場合はどうなのでしょう？　戦後から町工場が集まったんですね？

奥山氏　政策的に集められたところもあるようです．ニコンとかキヤノンとか光工学系の大企業が周辺に出てきたということもあります．これからは変わっていくと思います．また，後継者がまた違うことを考えているようです．先代がやってきた伝統工芸的な職人芸的な技術以外に，もう少し自分たちでプラスアルファした洗練されたものをやりたいと思っている人はいるようです．今後は変わるかもしれないですね．ただ，自治体がどう変わるかですね．未だに工業施策，商業施策と政策を分けてしまっているんですね．問題の根が深いと思っています．予算も取り合い，コンセンサスが取れてなかったりしています．

聞き手　それも区長の政治力ですね．

奥山氏　そうですよね．

聞き手　中学，高校などでお世話になって来ている世代であれば上から目線にならないのかもしれませんが，そういう世代になるまではどうしても官は上から目線ですからね．まずは役人教育ですね．

奥山氏　役人は異動によってキャリアが分断して，どうしても直線的キャリアでないので，役所としてノウハウが蓄積していかないのですね．計画書ばかりすごくて．

聞き手　そうは言っても役所との関連も強いですね．ところで，先ほどの第3セクターのデータベースは今はもうなくなってしまったのですか？

奥山氏　いえ，産業振興協会が引き継いでデータベースは細々やっていますが，更新もあまりしていないようです．きっと命がけでやっていく人がいないんですね．それでもデータベースとしては20年生きているような状態ですね．

聞き手　お話はつきませんが，この辺で，ありがとうございました．

注

奥山　睦『メイド・イン・大田区』静岡学術出版，2008年．

奥山　睦『職人の作り方』毎日コミュニケーションズ，2008年．

奥山　睦『大田区スタイル』アスキー，2006年．

略歴

奥山　睦（おくやま　むつみ）

武蔵野美術大学実技専修科油絵専攻卒業．法政大学大学院政策創造研究科修士課程在籍，地域雇用政策について研究中．1990年，出版物やホームページの企画制作プロデュースを主とする株式会社ウイルを設立し，現在代表取締役．2000年，東京都大田区の女性経営者異業種交流会「TES」のメンバーの共同出資による，パソコン指導及びコンサルタント会社，株式会社イーテスを設立．6年間の代表取締役を経て，現・取締役．東京都大田区の中小製造業，商店などのIT化支援に携わる．2004年，東京都大田区から長年の区政発展への寄与により，区政特別功労者として表彰される．静岡大学大学院工学研究科客員教授．独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援アドバイザー．財団法人日本生産性本部認定キャリア・コンサルタント．